

# 平成28年度 香川県特色ある体力づくり推進学校表彰調査票

記載責任者 ( 養護教諭 ) ( 奥田 歩 )

学校(園)名	丸亀市立城坤小学校	学校長名	
		虫本 利久	
学校所在地	香川県丸亀市今津町384番地 電話 ( 0877 ) 24 - 4705	児童生徒数	学級数
		590 人	25 組

## 1 体力づくりを推進する上での学校(園)の課題

27年度の新体力テストでは、男女とも複数種目で全国平均を下回っていた。(資料①)測定後の取り組みによって資料②③のように改善が見られる種目もあるが、依然として課題となる種目も見られた。運動する児童、しない児童の二極化や、運動をしても種目の偏りがあるといった原因が考えられる。現在、休み時間には元気よく運動場で遊んでいる児童の姿が見られるが、読書など室内での活動を好む児童もおり、十分に体を動かして遊ぶことができていない児童もいる。中学年以上の児童はドッジボールや鬼遊びをしており、用具・遊具などを活用して遊ぶ児童は主に低学年であり、同じ遊び方を続けている傾向がある。

また、授業中の姿勢保持の困難さ、生活習慣の課題(早寝、早起き)も体をつくるうえでの課題である。

## 2 平成28年度の体力づくりの重点目標と全体計画

### (1) 重点目標

教科体育の充実を図り、様々な運動への興味をもたせるようにする。

楽しさを感じる運動経験やクラスマッチでの勝利をめざした活動等をとおし、運動の得意な児童も苦手な児童も誘い合って運動をする習慣をつける。

### (2) 全体計画

#### ①目標

- ・自分の体力や技能をもとに、自分にあった運動のめあてをもつことができる。
- ・体力や技能の向上のために積極的に運動に努め、運動習慣を身につけることができる。

#### ②具体的取組

##### ・教科体育

体育部会から教員に向けて、児童が運動の特性にふれたり、運動の楽しさや喜びを味わったりするような学習方法や教材を提案する。休み時間に遊びたくなる教材やゲームを研究し、提案する。

##### ・業間、昼休み

業間や昼休みは、運動場で積極的に過ごし、自己の体力の向上やなかまづくりに努める。

##### ・クラブ活動

自分で選んだクラブ活動(運動種目)を、上級生や下級生と協力しながら楽しめる時間を設ける。

- ・クラスマッチ

クラスで励まし協力し合って練習し、運動経験を増やす。そして、大会参加をすることで児童相互の連帯感を育て、学年間の交流も図る。

- ・放課後等の特別クラブ

陸上等の特別運動クラブでの活動をとおして、興味・関心や自己の特性を生かすとともに個性の伸長を図る。

- ・新体力テスト

体力や運動能力の現状を把握することで、今後の運動に関する具体的な目標をもたせる。前年度の体力テストの結果比較から、走力と瞬発性を高めるために、走・跳の運動や体づくり運動領域での教材を提案する。

- ・その他

「レッツジャンプ、なわとび」を徹底し、運動習慣の定着を図る。生徒指導、食育指導、保健指導と関連した指導を進める。

### 3 体力づくりの取組み状況

(1) 重点的に取り組んでいる項目に、3つ以上○をつけてください。

項 目	重点
ア 戸外遊びができる時間や場（園庭環境等）の確保<幼稚園>	
イ 園外保育の積極的な実施<幼稚園>	
ウ 教材・教具や場を工夫した体育・保健体育の充実	○
エ 始業前や休み時間、放課後等を利用した体を動かす機会の設定	○
オ 意欲的に取り組める行事の工夫	○
カ 運動部活動等の運営の工夫<中学校>	
キ 体力向上に向けた家庭・地域との連携	
ク 望ましい生活習慣、食習慣を確立する取組	○

(2) 重点項目について取組み内容や方法等を書いてください。

ウ 教材・教具や場を工夫したりして体育の授業を行っている

現職教育の体育部会からいろいろな運動の学習方法や、ゲーム教材を提案している。それらをとおして、運動の特性にふれたり、運動の楽しさや喜びを味わったりできるようにし、日常の遊びへとつながるようにする。

○準備運動、マット運動などの指導資料を作成し、授業に活かす。倒立など、体幹を鍛える運動を積極的に取り入れる。(資料④)

○体育授業のさらなる向上を図るために、系統表を作成し配布する。

○運動委員会（児童体育委員会）を中心に「なわとびカード」（資料⑤）や「倒立カード」（資料⑥）を作成し、授業や昼休み等に活用する。

エ 始業前や授業の間の時間等を利用して体を動かす機会を設定している

「1校1運動」の柱として、前年度から継続して短なわとびを習慣化させる。2学期からは昼休みに体育館を開放し、運動委員会を中心に「なわとびカード」を活用し、なわとび練習を行う。運動委員会児童はなわとびの指導や検定の補助を行ったり、技能的な跳び方を提案したりして、楽しみながら目標をもって運動できるようにする。なわとび検定の合格者は校長から表彰して大いに称賛することにより、児童のやる気を高めるようにする。(資料⑦)

## オ 意欲的に取り組める行事の工夫をしている

### (1) クラスマッチの活用

さまざまな運動に進んで取り組む態度や子ども相互の連帯感を育てるために、運動会や各学期にリレーや水泳、球技やなわとび等のクラスマッチを実施している。クラスマッチに向けて授業や休み時間に練習することで運動経験を増やす。また、学級で励まし協力し合って練習し、大会参加をすることで、児童相互の連帯感を育て、学年間の交流も図る。

### (2) 放課後の特別クラブ

特別運動クラブ（陸上、ソフトバレーボール）の活動を通して運動に親しみ、体力や技能の向上をめざす。放課後、担当教員が、大会出場を目的とするだけでなく、体力や競技力の向上につながるように指導している。陸上クラブでは自己記録を更新する児童が増え、大会出場や上位入賞を目標として意欲的に運動に取り組んでいる。

## ク 望ましい生活習慣、食習慣を確立する取組を進めている

### (1) 生活習慣調べの活用（資料⑧）

学期に一度、「すっきりしらべ」として早寝・早起き・朝ごはん・ハンカチとティッシュの持参、歯みがきの生活習慣について調べている。取り組みの前には望ましい生活習慣についての知識、取り組みの後には調べの結果を保健便りで取り上げたり、短時間の保健指導の題材としたりしている。

### (2) 健康委員会（児童保健委員会）での発表（資料⑨）

毎月の生活目標について、各委員会で重点取り組みをしている。健康委員会では、よい姿勢で学習することを目標として取り組んだ。委員会の児童が、姿勢と健康の関係について集会で全校生に向けて発表し、その後、重点取組として、5日間よい姿勢で学習ができたか、調べをしている。目標が達成できた個人と学級を表彰し、全校でよい姿勢への意識を高めることにつなげている。

### (3) けがマップの活用（資料⑩）

校内でのけがの状況を校内図に示して掲示している。教室や廊下等、校舎内でけがをした児童には、保健室での手当ての際に養護教諭や健康委員会児童からけがをしたときの行動を振り返るような声かけをして、望ましい行動や姿勢について考えられるようにしている。

## 4 成果と課題

- 新体力テストの結果が昨年に比べ向上している。昨年度から継続して運動する機会を設けることが結果につながったのではないかと考える。今後も様々な児童が運動に取り組める場を設定していく。
- 継続して、なわとびをする機会を意図的に設けることで、児童が体を動かす習慣ができつつある。運動委員会の児童が主体となってなわとび練習を運営することで、自主的な児童の参加が増えている。児童が誘い合って運動することで、楽しみながら練習ができ、技能の上達にもつながっている。
- けがマップを活用することで、けがの発生が減少している。運動能力の向上や体幹を鍛える運動指導、姿勢指導とも関連させて、より安全な生活が送れるように指導していく。
- 運動しようとする児童が増えてきたが、なわとびの難しいとび方や回数の伸びで評価をしてしまう傾向がある。なわとびで身につけさせたい力は何なのか、本質を考えていく必要がある。
- 早寝早起きの習慣が定着していない児童に対して、家庭と連携した指導を継続していく。